

2013年3月期決算説明会

2013.5.23

NIPPON YAKIN

日本冶金工業株式会社

本日のアジェンダ

1. 2013年3月期決算サマリー

取締役常務執行役員経理部長 久保田 尚志

2. 足元の状況と中期経営計画進捗について

代表取締役社長 木村 始

＜参考＞主要データ(連結ベース)

2013年3月期決算のポイント

- ①欧州や中国の低迷、歴史的円高などにより事業環境は厳しく、減収減益
- ②販売量はステンレス一般材、高機能材部門とも前期比減少
- ③円高是正やコストダウン効果により第4四半期は経常黒字に転換
- ④昨年10月に策定した総コスト削減計画は予定通り進捗、販売価格は国内市場で緩やかに改善
- ⑤2014年3月期は、「変革2011」及び「総コスト削減計画」に基づく施策を着実に推進し、通期での経常黒字を達成する

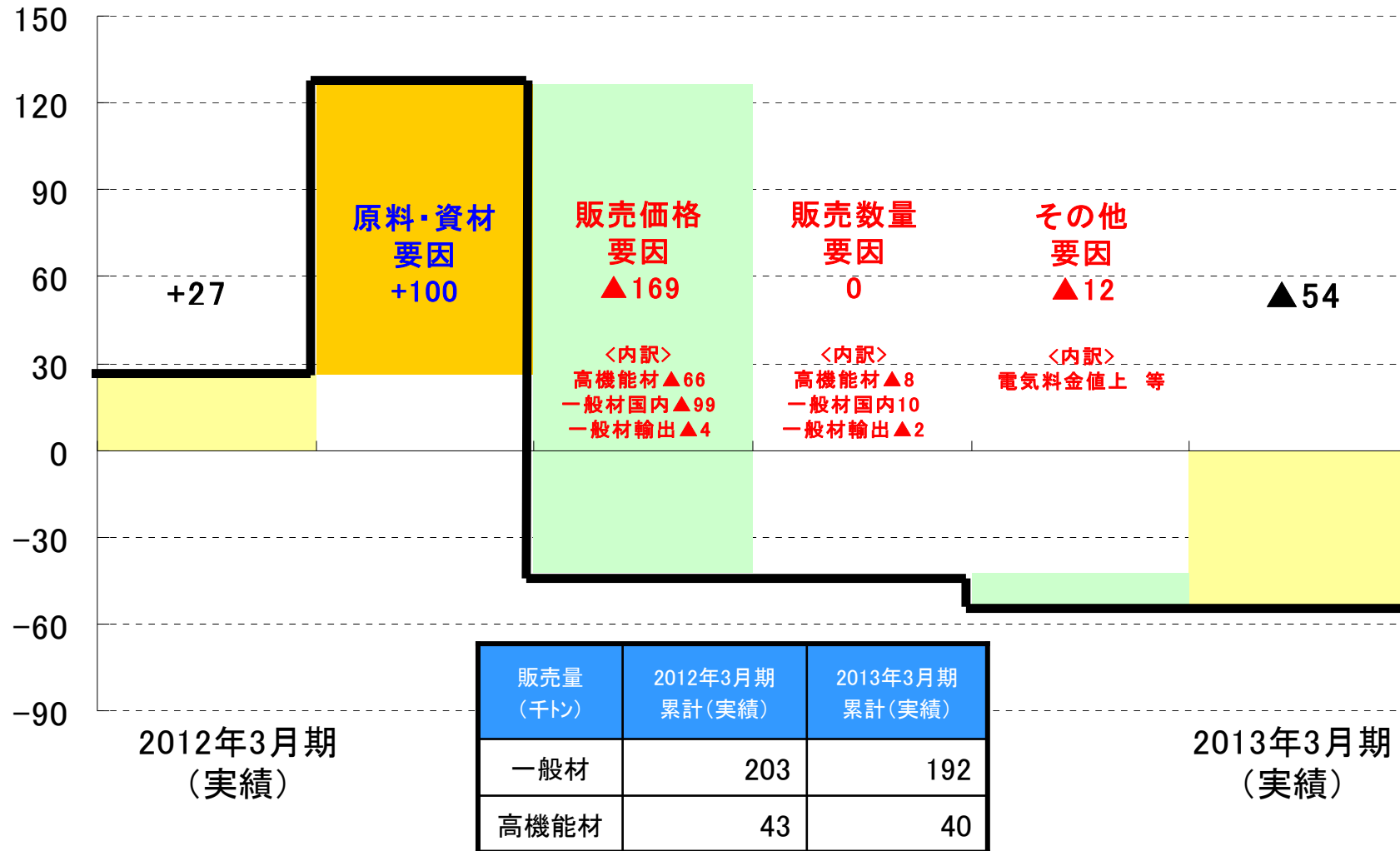
損益計算書 連結 概要

	2012年3月期 通期実績 (億円)	2013年3月期 通期実績 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,349	1,088	▲ 260	▲ 19.3
営業利益	27	▲ 54	▲ 80	-
経常利益	14	▲ 65	▲ 78	-
当期純利益	8	▲ 74	▲ 82	-
ROA(%)	1.9	▲ 3.6		
高機能材部門 売上高比率(%)	38.0	36.2		

(注)ROAは(営業利益+受取利息・受取配当金)／期初・期末平均総資産

(ご参考)ニッケルLME期中平均価格: 2012年3月期9.56US\$/Lb、2013年3月期7.69US\$/Lb。

営業利益変動の要因分析(前年同期比較:億円)



貸借対照表 連結 概要

	2012年3月 末 (億円)	2013年3月 末 (億円)	前期比増減 (億円)	2012年3月 末 構成比 (%)	2013年3月 末 構成比 (%)
現金・預金	151	101	▲ 50	10.1	7.2
売掛債権	238	217	▲ 21	15.9	15.4
たな卸資産	291	276	▲ 15	19.4	19.6
その他流動資産	4	6	1	0.3	0.4
固定資産	814	808	▲ 6	54.3	57.4
【資産合計】	1,499	1,408	▲ 91	100.0	100.0
借入金・社債	637	637	▲ 0	42.5	45.2
その他負債	483	467	▲ 17	32.2	33.1
【負債計】	1,120	1,104	▲ 17	74.8	78.4
【純資産計】	378	305	▲ 74	25.2	21.6
自己資本比率(%)	25.2	21.6			

キャッシュフロー計算書 連結 概要

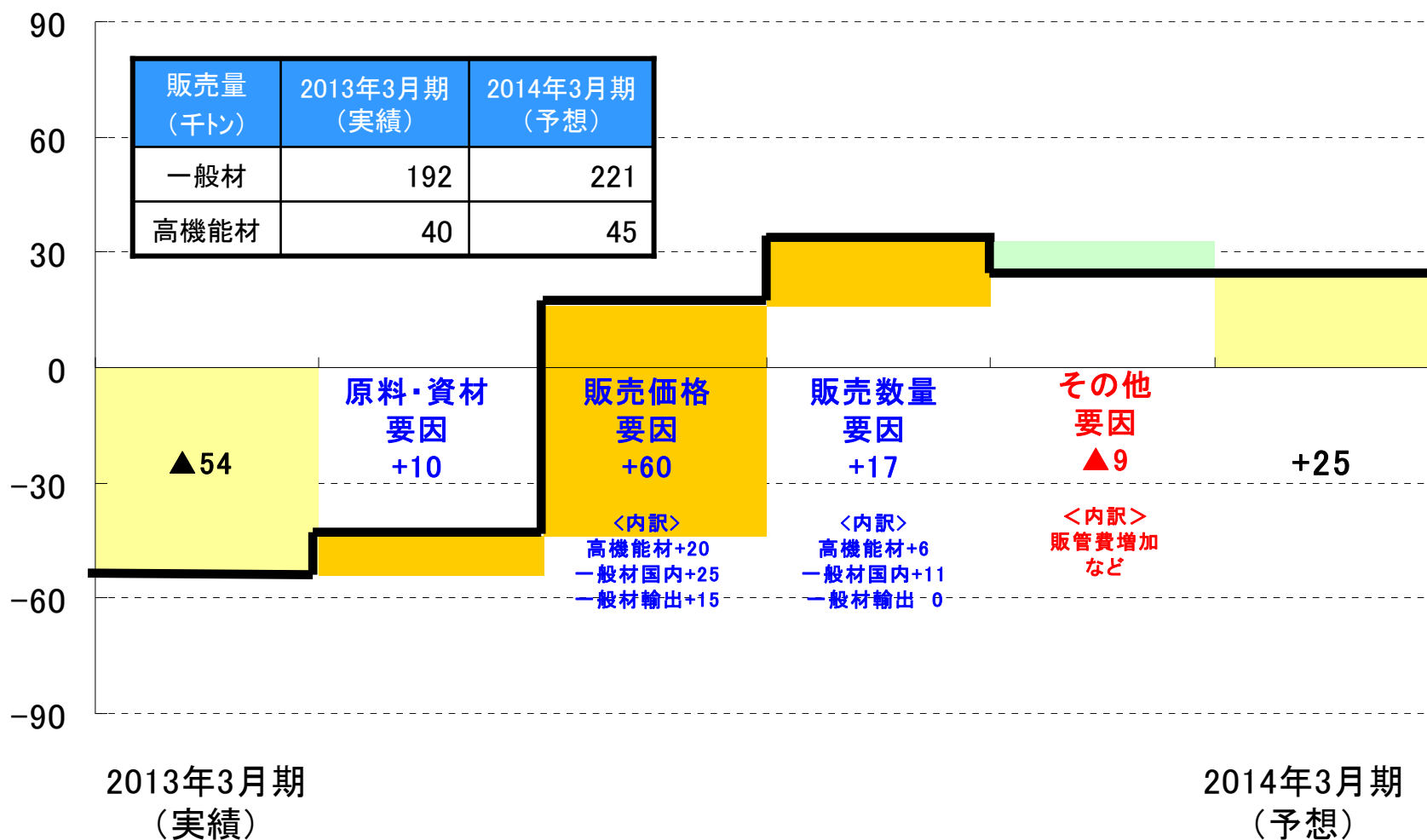
	2012年3月期 通期実績(億円)	2013年3月期 通期実績(億円)	前年比 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	85	▲ 5	▲ 90
税金等調整前中間(当期)純利益	0	▲ 73	▲ 73
減価償却費	50	42	▲ 7
売上債権の増加額(△)又は減少額	▲ 2	21	23
たな卸資産の増加額(△)又は減少額	28	15	▲ 13
仕入債務の増加額又は減少額(△)	▲ 8	▲ 8	0
法人税等の支払額	1	▲ 1	▲ 1
その他	17	▲ 2	▲ 19
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 36	▲ 45	▲ 9
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 42	▲ 47	▲ 5
その他	6	1	▲ 4
フリー・キャッシュフロー	49	▲ 50	▲ 100
財務活動によるキャッシュフロー	34	▲ 1	▲ 36
長短借入金の純減少額(△)	▲ 3	▲ 2	1
株式発行による調達	41	-	▲ 41
その他	▲ 4	1	5
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	84	▲ 50	▲ 134

2014年3月期連結業績予想

	2013年3月期	2014年3月期		
	通期実績 (億円)	今回予想 (億円)	前年比 (億円)	前年比 (%)
売上高	1,088	1,230	142	13.0
営業利益	▲ 54	25	79	—
経常利益	▲ 65	10	75	—
当期純利益	▲ 74	10	84	—

(前提)2014年3月期ニッケルLME期中平均価格：7.50US\$/Lb、為替レート 95円。

営業利益変動の要因分析(前期比較:億円)



本日のアジェンダ

1. 2013年3月期決算サマリー

取締役常務執行役員経理部長 久保田 尚志

2. 足元の状況と中期経営計画進捗について

代表取締役社長 木村 始

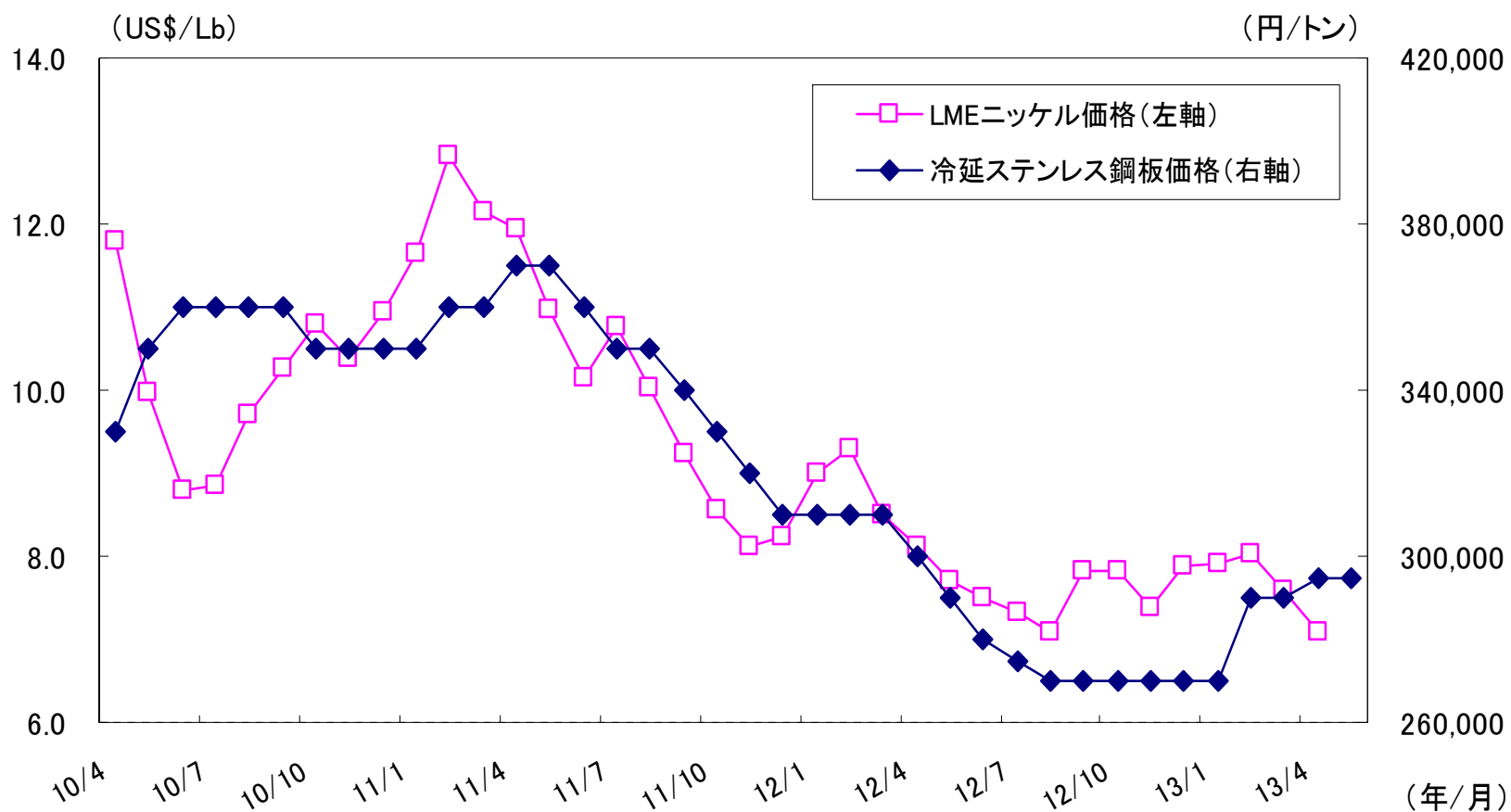
＜参考＞主要データ(連結ベース)

ステンレス一般材の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
前年度下期	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 政権交代を契機とした円高是正や景気回復への期待感、ニッケル価格上伸を受けて、落ち込みすぎた販売価格改定が進み収益性は改善方向へ ✓ ニッケル価格上昇を見込んだと思われる仮需も見られたが、実需回復と言えるまでの状況にはならず ✓ 特に生産財としての厚板需要は低調 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 円高是正により収益性は改善したが、ニッケル価格上伸にもかかわらず東南アジアにおけるドル建て販売価格は上昇せず、年度末にかけて値下がり傾向 ✓ 従来どおり収益性の高い品目のみの受注に留めた
今年度の方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 厚板数量の回復を目指し高付加価値材(ポルカプレートなど)とのセットでの拡販を図る ✓ 震災復興需要への期待は大きいですが具体化への展開は下期以降になると予想 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ドル建て販売価格の回復はにぶいが、円安メリットを勘案し選別受注を図る ✓ 円安メリットを生かし厚板の輸出マーケットへの展開を図る

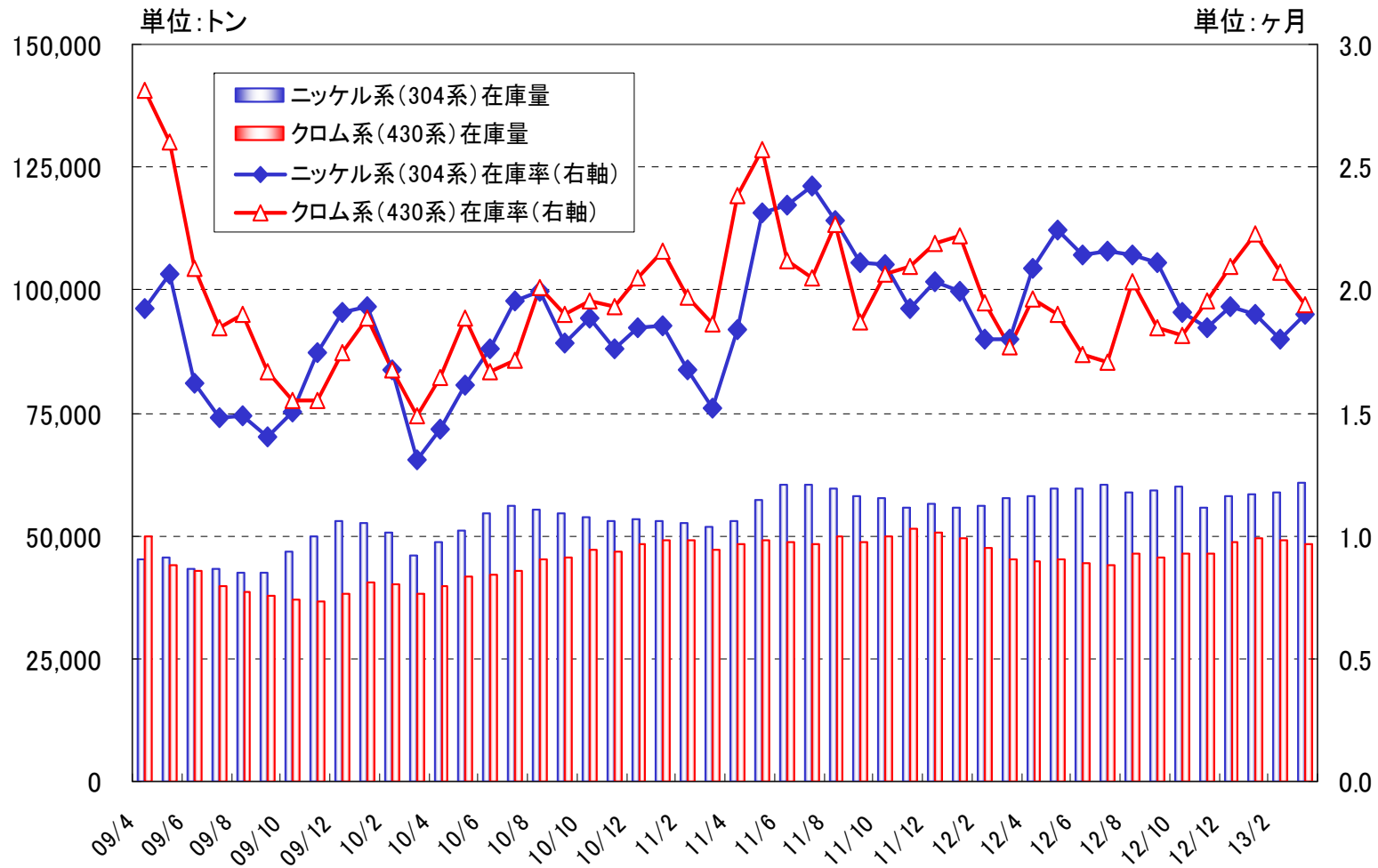
ニッケル・ステンレス価格の推移(月次)

➤ニッケル価格は直近ピークの2月から下落傾向、ステンレス価格改定は徐々に浸透



(注1) 冷延ステンレス鋼板: 東京SUS304種18-8、2.0ミリ。
 (注2) 2013年5月の冷延ステンレス鋼板価格は直近。
 (出所) 鉄鋼新聞。

汎用ステンレス(ニッケル系・クロム系)在庫の推移(月次)

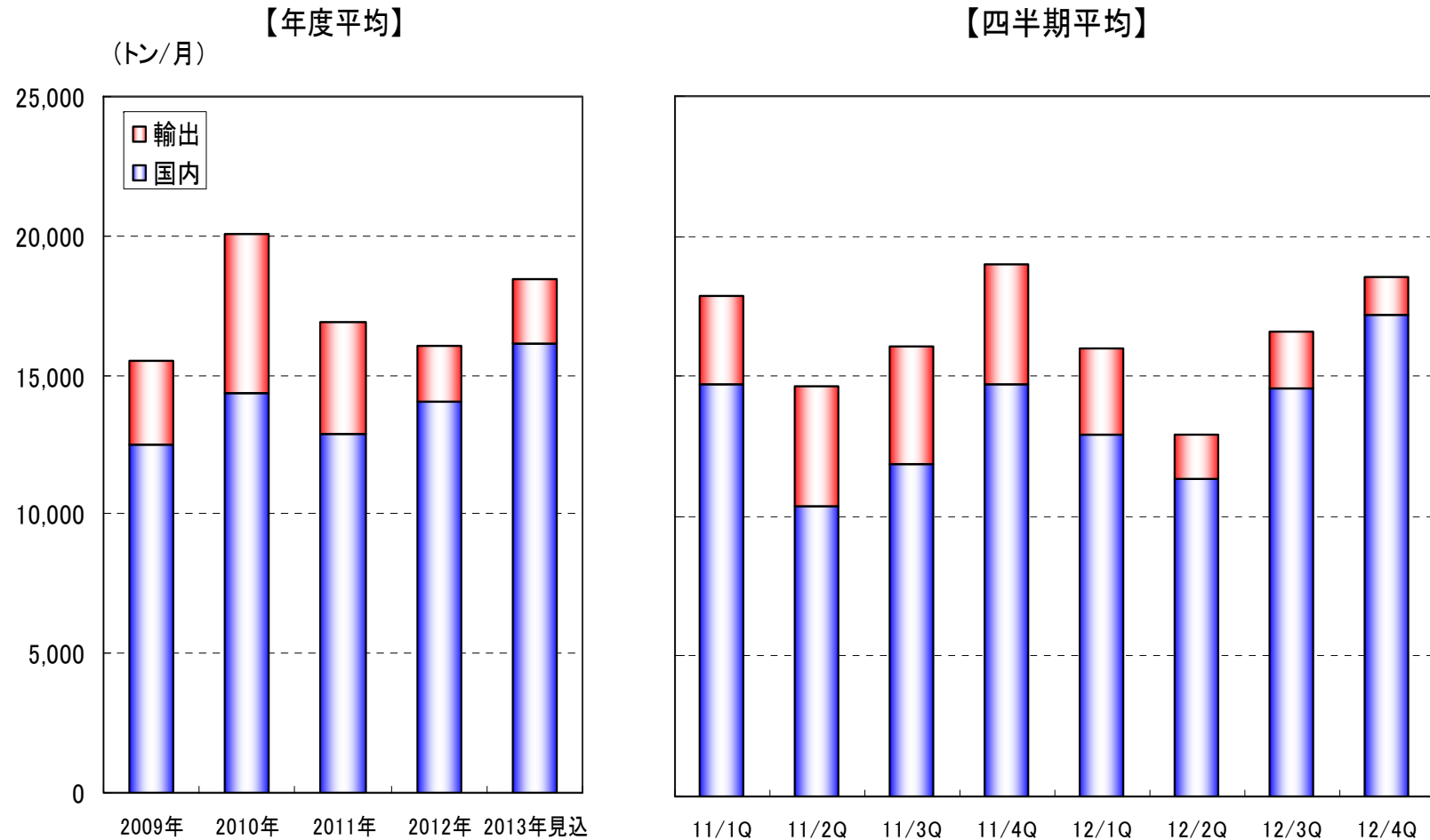


(出所) 全国ステンレスコイルセンター工業会。

(年/月)

販売量実績及び見込み《ステンレス一般材》

➤ 輸出は総コスト削減計画方針により大幅減少、国内向けは第2四半期をボトムに増加

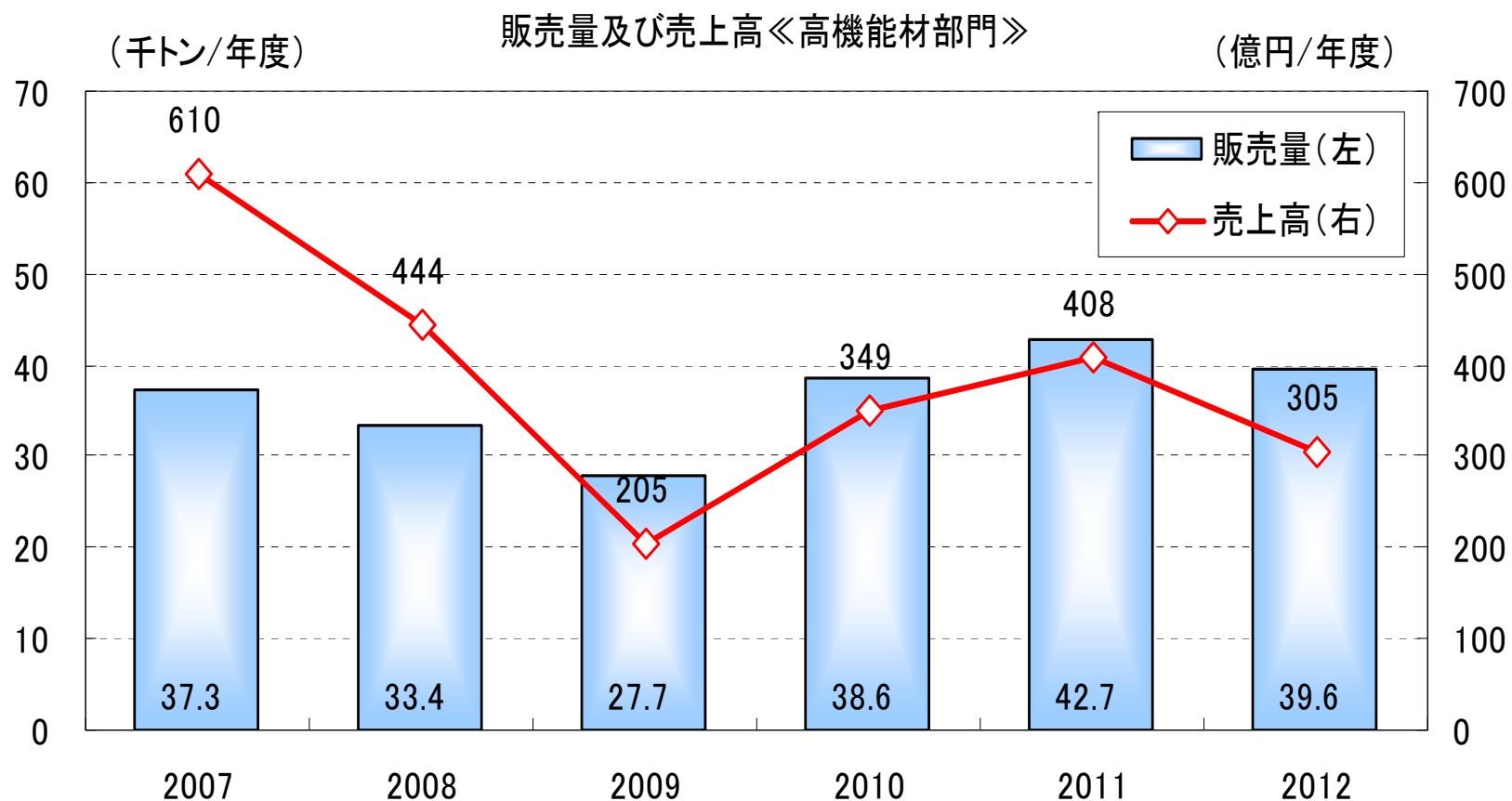


高機能材部門の状況

	(1)国内マーケット	(2)海外マーケット
前年度下期	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 10～12月は貯水槽関連など公共工事が比較的好調 ✓ 需要減速が心配された原子力関連、航空機関連についても計画どおりの受注達成 ✓ ニッケル価格は \$7～8/lbの範囲で推移、1～3月期については為替影響により若干の原料高となったが、販売価格の大きな変動、需要の減退等の影響見られず ✓ 国内販売については計画達成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 欧州は依然経済状況が不透明であり低調 ✓ 中国も好況期ほどの景気回復には至らず、日本製品不買の傾向も散見され期待したほどの受注販売までには至らず ✓ 北米は、航空機関連需要の減速が心配されたが影響軽微。米国経済が若干上向いてきた影響もあり、エネルギーや家電向け需要を取り込み ✓ 東南アジア市場は、同地域内外のOil&Gas関連需要の高まりを受け、高耐食鋼の引合・受注が堅調に推移 ✓ 輸出市場全体では北米・東南アジア市場で好調な分野を取り込んだが、中国・欧州の減少分をカバーできず
今年度の方針	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今期においても航空機、貯水槽関連は堅調 ✓ 前期、減少した苛性ソーダ用材については、前向きな動きもあり一定の販売量を確保出来る見通し ✓ 前期から継続する円安基調は国内ユーザーの輸出競争力を高めると期待 ✓ 海外で需要の高まる発電、エネルギー、肥料、環境に関する設備を国内各社が積極的に受注を図る動きも見られ、国内外の情報も取り混ぜて精力的に受注活動を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 欧州は厳しい状況が継続すると想定、ファブリーケーターへの積極的な働きかけを強化することで新規顧客の確保目指す ✓ 中国も急激な需要回復は期待できないが、発電、排煙脱硫、石炭・ガス等の資源エネルギー開発、シーズヒーター等の確実な需要取り込みを図る ✓ 北米では実績のある耐熱鋼、航空機、機器構造材、バイメタル、シーズヒーター等を安定需要として取り込み、南米への販売可能性も視野に入れ、エンジニアリング会社などへの働きかけ強化 ✓ 東南アジアでは、拡大するOil&Gas需要の取り込みを継続、フットワークと短納期を武器に顧客拡大、需要取り込みの最大化を図る

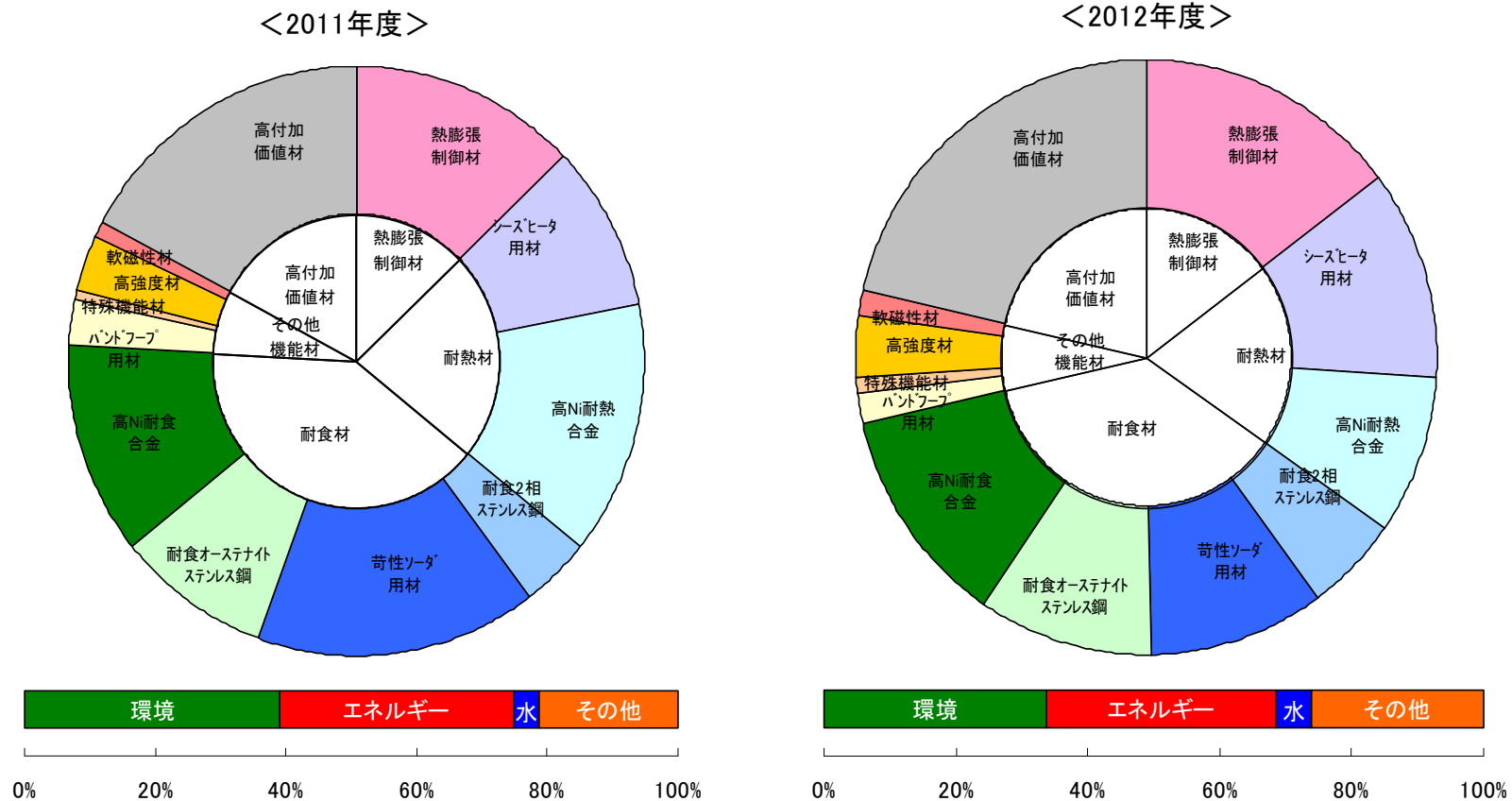
販売量及び売上高 《高機能材部門合計》

▶ 欧州・中国の低迷により販売量減少、ニッケル価格下落により単価も下落



高機能材部門の分類・用途別分類の構成比(売上高)

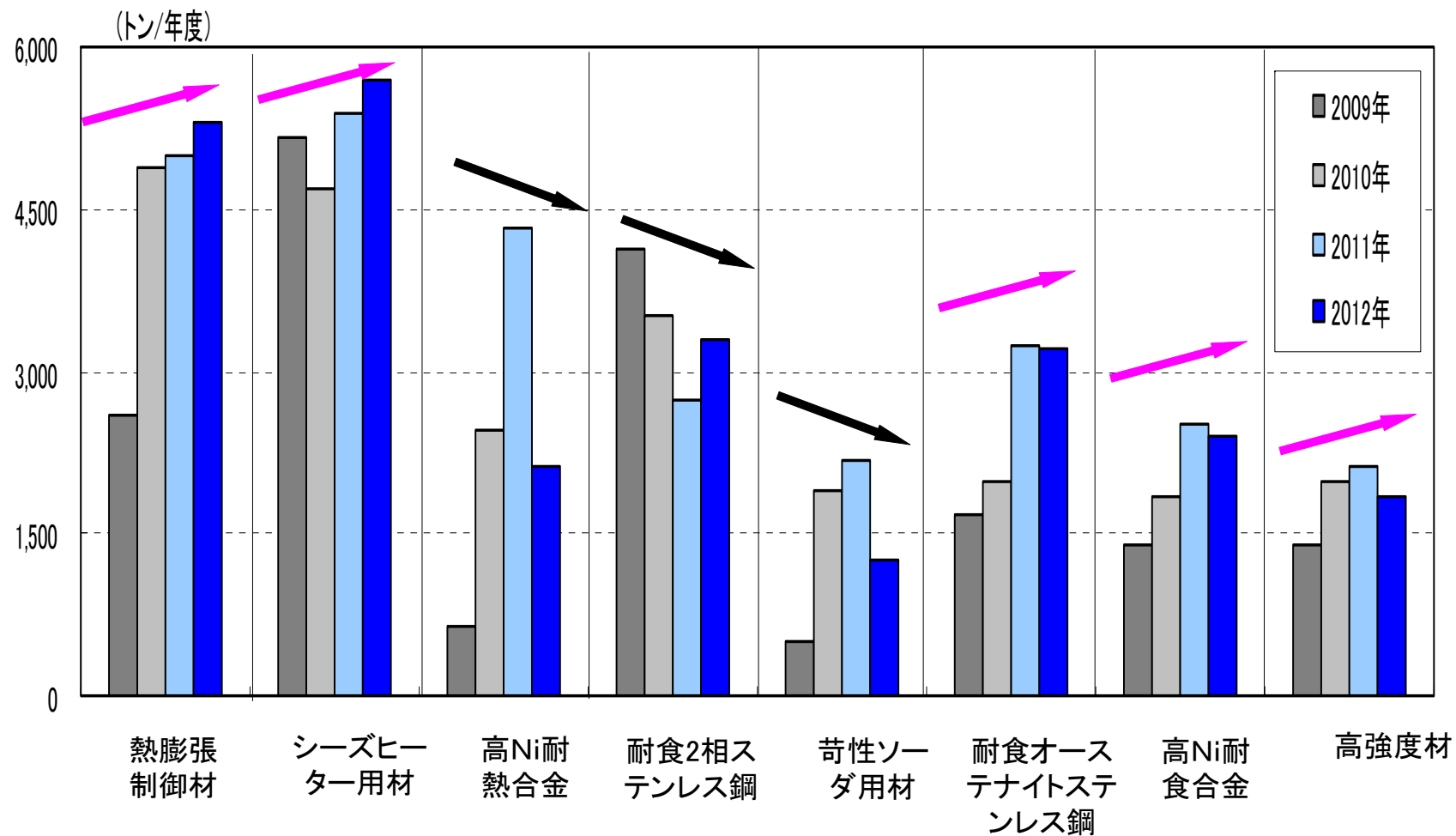
▶ 熱膨張制御材、シーズヒータ用材、高ニッケル耐食合金などは堅調



(注) 下部の帯グラフは高機能材部門全体における需要分野別の割合を示す。

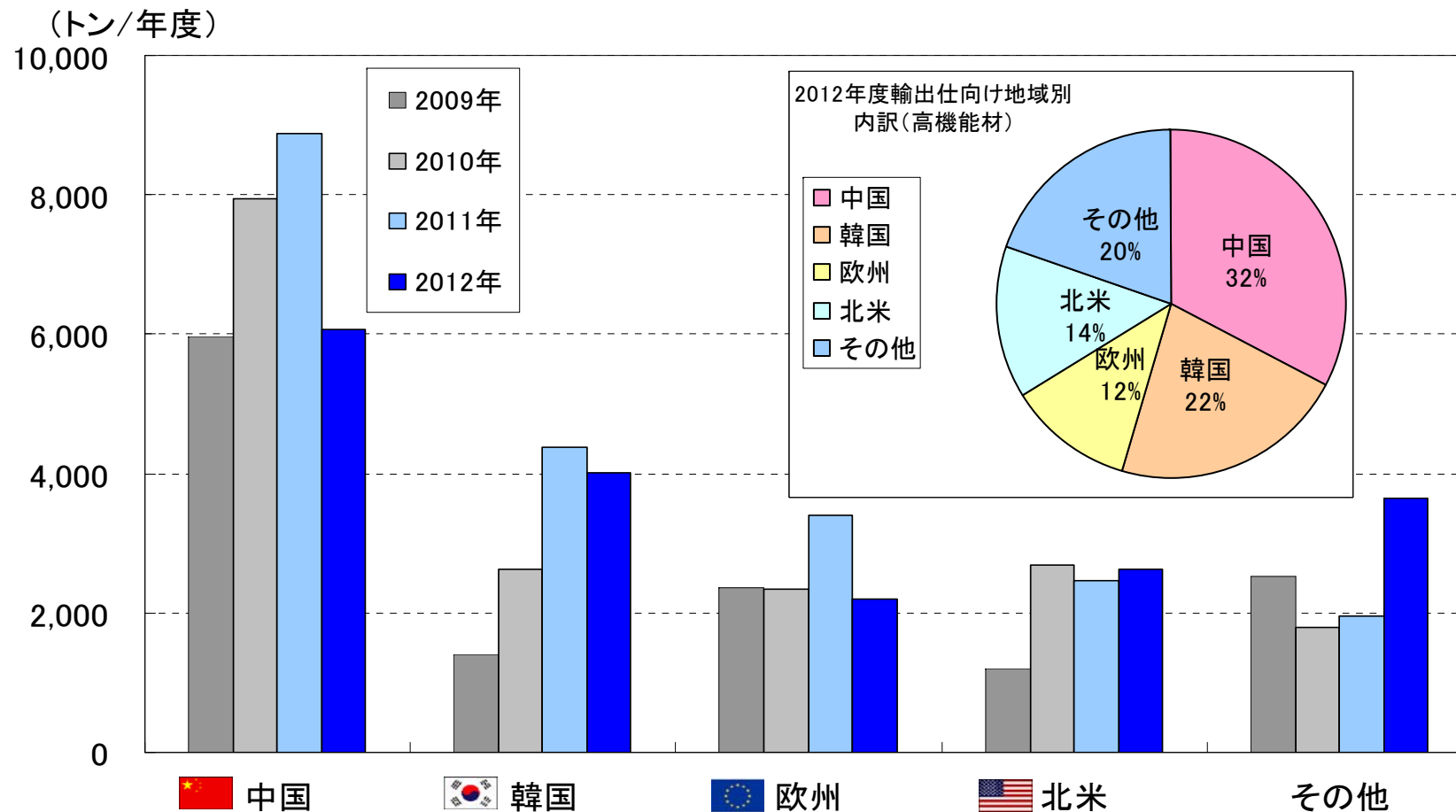
高機能材の分類・用途別分類の推移(販売量)

▶ 熱膨張制御材・シーズヒーター用材などボリュームゾーンは堅調



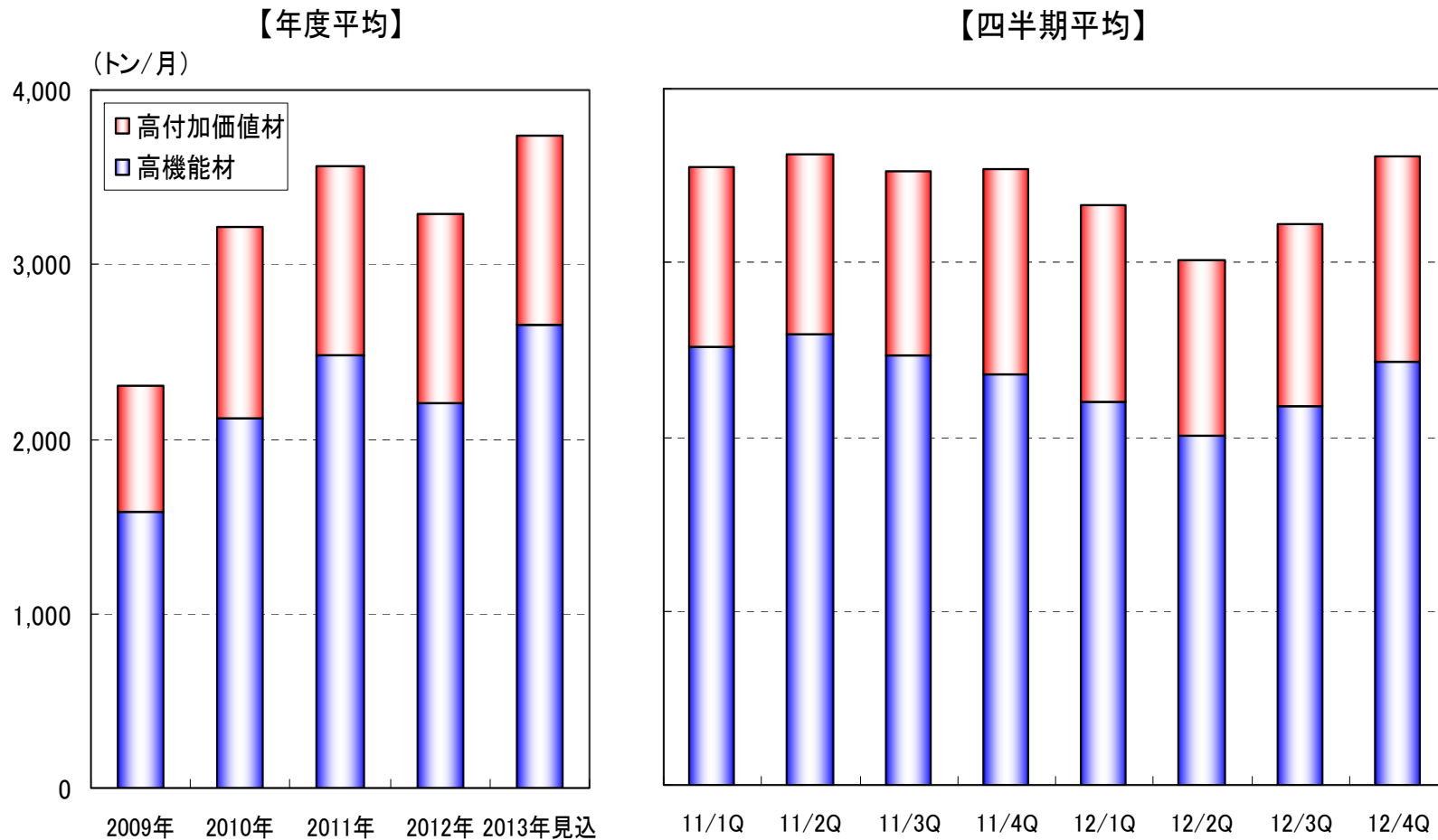
高機能材の輸出仕向け地別推移(販売量)

➤ 中国向けは量・割合とも減少、その他の地域では東南アジア向けが急増



販売量実績及び見込み《高機能材部門合計》

▶ 昨年度第2四半期をボトムに回復、今期は1割強の増加を目指す



高機能材案件紹介 NAS 185Nを使用した海洋鋼構造物



- ・近年、港湾の岸壁や棧橋、防波堤などに「ジャケット」と呼ばれる鋼構造物の施工件数が増加
- ・当社の耐海水性ステンレス鋼は、良好な耐海水性の実証済みであるためジャケット製作・施工会社が高く評価

【採用実績例】

2010年

東京国際空港羽田海上滑走路(D滑走路)のジャケット式連絡橋

2012年

東京湾のジャケット式防波堤

2013年

九州地区港湾のジャケット式防波堤

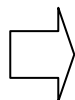
東日本大震災で被災した石巻港の護岸補修工事用のジャケット

区分	当合金名 (JIS規格名称)	化学成分等			
		ニッケル (%)	クロム (%)	モリブデン (%)	用途
高機能材 (耐食オーステナイトステンレス鋼)	NAS 185N (SUS312L)	17.50~18.50	19.50~20.50	6.00~6.50	海水環境 高濃度塩素イオン環境 高濃度食塩含有環境
一般材 (汎用ステンレス)	NAS 304 (SUS 304)	8.00	18.00	—	—

中期経営計画『変革2011』の進捗 1/2

▶ グローバル市場における成長戦略

①日米欧亜、4極体制の確立



- (1)2011年 日邦冶金商貿(上海)有限公司
- (2)2012年 Nippon Yakin Europe Limited
⇒Nippon Yakin America Inc.、バンコク駐在員事務所、
日本とあわせ世界市場をカバー

②ソリューション営業の強化



- (1)2011年 ソリューション営業部設置
⇒技術的知見を武器に市場開拓を狙う

③市場変化に機敏に対応できる 生産・販売体制の確立



- (1)2012年 統合原価システムへ移行
⇒原料価格等を適切に反映した原価管理の実現

④グループ会社における海外展開



- (1)2011年 ナス物産との合併で上海にて現地法人設立
- (2)2012年9月～ ナストーアタイの設備増強実施
- (3)2012年 ナス鋼帯でのバンコク駐在員事務所設置

中期経営計画『変革2011』の進捗 2/2

▶ 競争力強化に向けた施策

①高機能材製造プロセスの革新 (汎用ルート化)



(1)2012年 製鋼工場連続鋳造機の機能増強
⇒スラブ(鋼塊)品質向上(形状良化)により下工程での歩留りが大きく改善、余分な工程の省略も実現

②原料基盤の多様化による競争力強化



(1)2011年～ 安価なスクラップなど多様な原料を使用可能な操業体制実現を推進
⇒高価な高純度原料の使用削減

③川崎製造所に関する業務効率化によるコストダウン



(1)2011年 川崎業務改善チーム設置
⇒業務改善によるコストダウンを推進
(2)2011年 川崎製造所構内グループ会社再編統合
⇒ナステック(株)新設

④グループ再編による競争力強化



(1)2011年～ グループ機能の効率化を狙い再編実施
⇒カヤ興産(株)と宮津港運(株)の合併、子会社販売体制の見直しなど実施

高機能材拡販の加速

➤ 欧州・北米において営業体制強化、さらに拡販推進すべく機構改革実施



「総コスト削減計画」進捗状況

➤ 施策を強力に推進し多くの項目で計画を上回る

施策及び実績	2013年度 最終目標	うち2012年度 下期計画	2012年度 下期実績
(1) 販売製品構成の見直し			
① 汎用ステンレス分野において採算性重視の方針を明確化			
② 高機能材分野に経営資源をより集中させ、収益性改善、安定収益の実現			
(2) 生産総量に見合った総固定費削減			
① 設備集約等による減価償却費等の削減	7億円	3億円	4億円
② 総人件費の削減	10億円	3億円	4億円
(3) 高機能材コストダウン策等			
① 高機能材の汎用ルート化の拡大	18億円	5億円	6億円
② 自社製錬フェロニッケル効果拡大	13億円	6億円	6億円
③ その他	5億円	3億円	2億円
効果金額合計	53億円	20億円	22億円

配当について

▶ 2013年3月期の配当

2013年3月期の配当は誠に遺憾ながら見送ることとさせていただきます。

▶ 2014年3月期の配当予想額

経営環境は依然厳しく先行きへの不透明感があることから現時点では未定としております。今後の業績を見極め、開示可能になった時点で速やかにお知らせ致します。

本日のアジェンダ

1. 2013年3月期決算サマリー

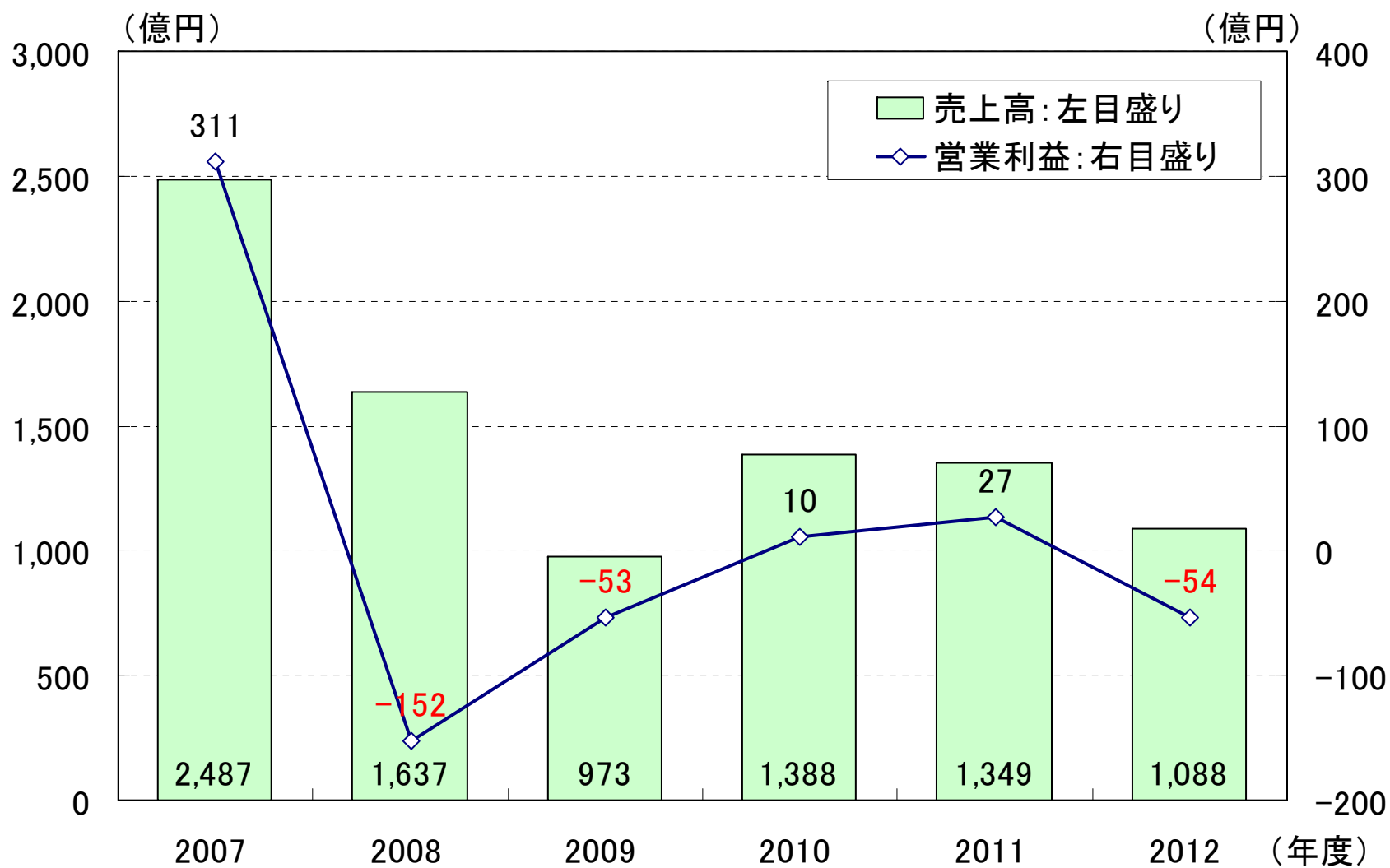
取締役常務執行役員経理部長 久保田 尚志

2. 足元の状況と中期経営計画進捗について

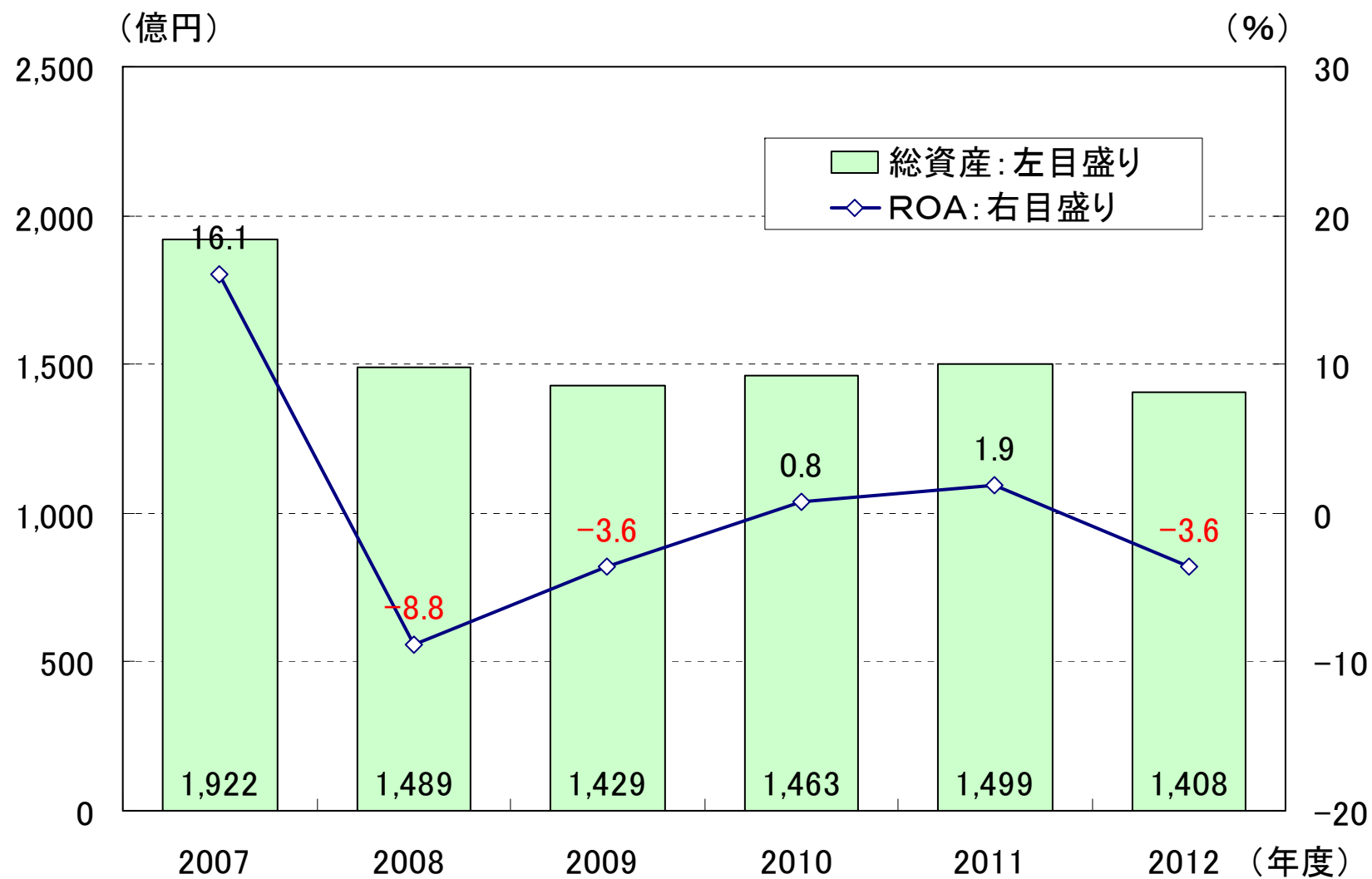
代表取締役社長 木村 始

＜参考＞主要データ(連結ベース)

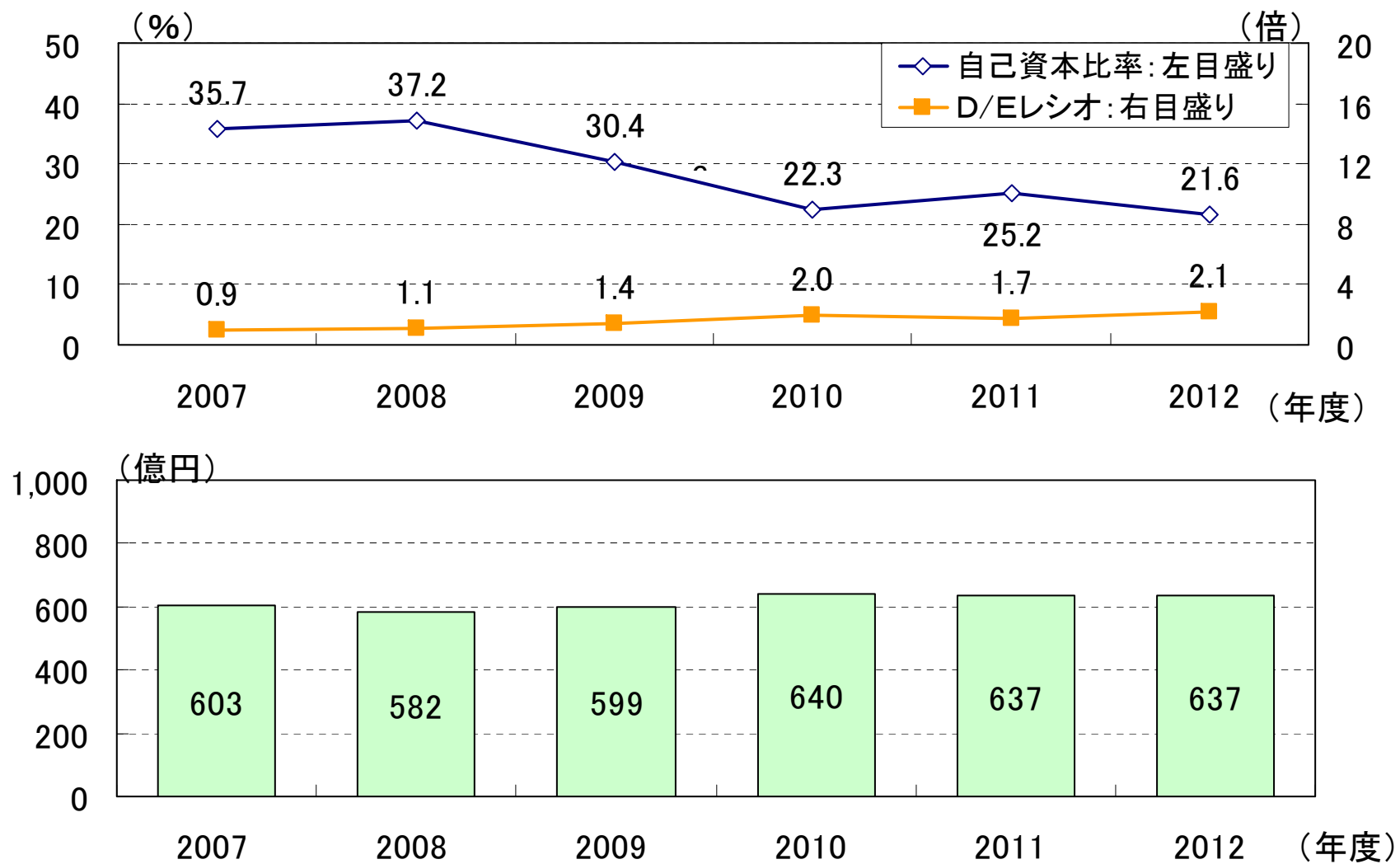
売上高・営業利益



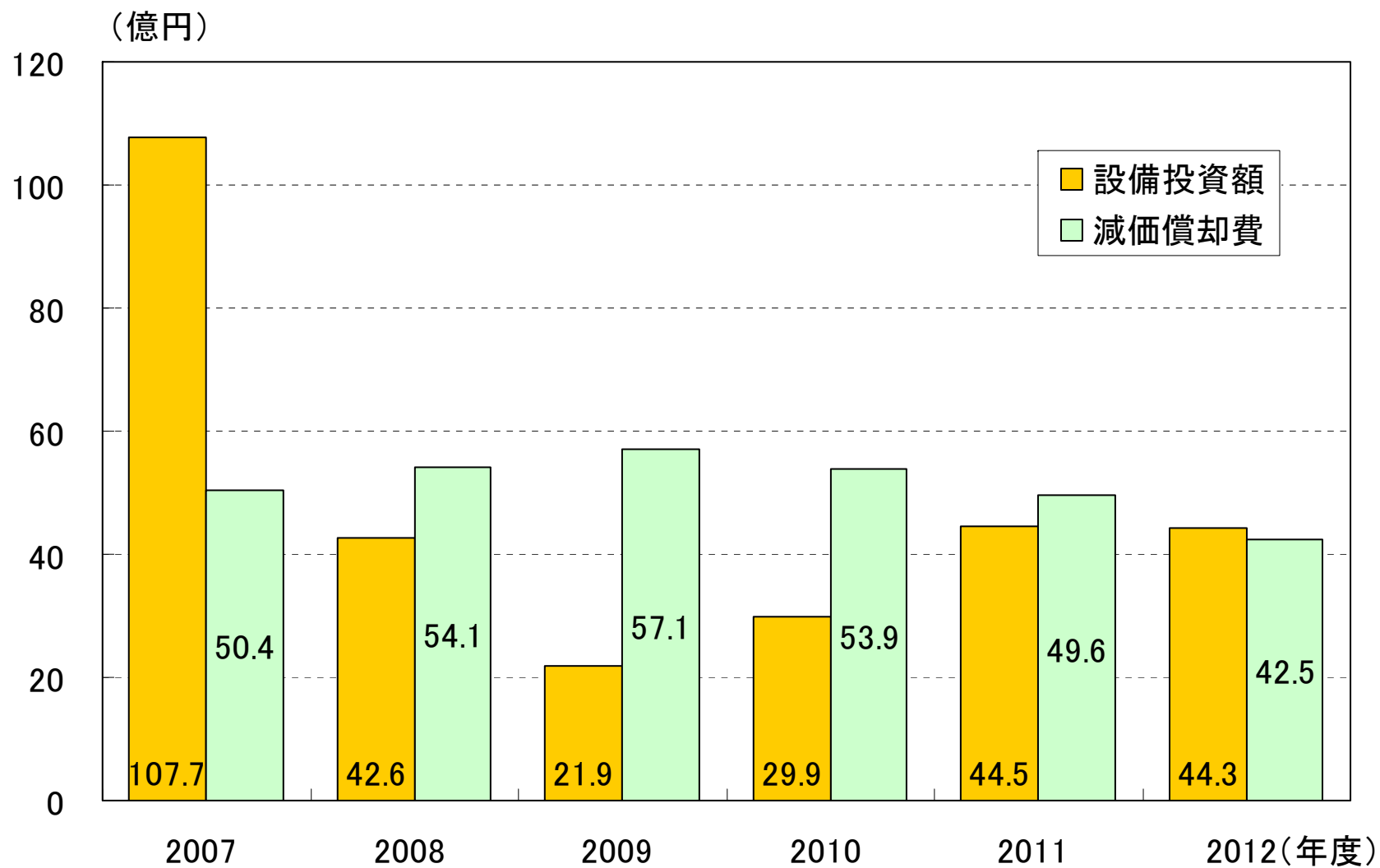
総資産額・ROA



有利子負債残高と自己資本比率、D/Eレシオ



設備投資(連結ベース)



歴史あるステンレスメーカーから新しいステンレス特殊鋼メーカーへ

日本冶金工業

本資料のいかなる内容も、弊社株式の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載された計画や見通し、予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切の責任を負いかねますので、ご承知下さい。

【本件に関するお問い合わせ】

日本冶金工業株式会社 IR事務局

Tel. 03-3273-3613 /

E-MAIL. irjimu@nyk.co.jp